

非小細胞肺癌(Non-Small Cell Lung Cancer : NSCLC)

- 非小細胞肺癌 (NSCLC)は、肺に悪性 (癌)細胞が認められる疾患のうち、その組織型を腺癌、扁平上皮癌及び大細胞癌と分類するものを指す。
- NSCLCの治療は病期に応じて選択され、Ⅳ期のNSCLCでは、全身化学療法を中心とした治療が一般的であり、ドライバー遺伝子の変異/転座の有無及びPD-L1の発現状態等に応じた治療選択が推奨されている (図1)。
- ドライバー遺伝子の変異/転座が陽性の場合、それぞれの遺伝子変異/転座を標的とするキナーゼ阻害薬の治療を行うことが推奨されている。一般的に、複数の遺伝子変異/転座が同時に陽性となることは無い。
- ドライバー遺伝子の変異/転座が陰性の場合、PD-L1の発現状態および患者の全身状態を考慮して、PD-1/PD-L1阻害薬の単剤療法もしくはプラチナ製剤併用療法+PD-1/PD-L1阻害薬の併用療法等の投与が推奨される。
- レットヴィモはRET融合遺伝子の変異/転座陽性の患者に対してのみ投与が推奨される。

図1: 肺癌診療ガイドライン2021 Ⅳ型NSCLC (一部改変)

